

編集後記

■編集委員

委員長

藤田郁代

副委員長

立石雅子

阿部晶子

内田信也

石坂郁代

稲坂陽子

勝木準子

菅野倫子

倉内紀子

倉智雅子

佐藤睦子

椎名英貴

中村光一

深浦順一

福岡達江

長谷川賢一

原由紀

原田浩美

春原則子

平島ユイ子

水田秀子

矢守麻奈

■英文要旨の校閲

Gordon BATESON

勝木準

今夏は暑さの厳しい日々が続く一方で、集中豪雨による被害が多発しましたが、ようやく秋の気配が感じられるようになりました。今号には新潟市で開催された第23回日本言語聴覚学会(佐藤 厚会長)の事後抄録と5編の論文が掲載されています。毎年、第3号は9月下旬にお届けしていますが、今学会では事後抄録の締切が8月9日であったため、数週間遅れてお届けすることになりました。

第23回日本言語聴覚学会はCOVID-19が再び蔓延し始めたことにより、現地とZOOMによるハイブリッド開催となりましたが、充実した内容で成功裏に終了しました。近年の学会は大部分が県士会による主催で、今学会でも地域独自の視点から言語聴覚臨床の課題を掘り下げた興味深い企画が多くみられました。

今号に掲載された才藤栄一先生の総説「摂食嚥下練習と運動学習」(前学会の特別講演)はわが国の摂食嚥下リハビリテーションを草創期から先導し、その発展に尽くされた先生ならではの内容で、すべての読者の心に刻まれるものと思います。奥山淳子氏の原著論文、田中誠也氏の調査報告および上岡清乃氏のレポート「現場最前線」は言語聴覚士の資質、専門性や研究環境といった職能をテーマとしており、興味深い内容です。また三島章裕氏の論文は、COVID-19蔓延下の言語聴覚療法に関する意欲的な取り組みの報告です。

本誌では、編集委員と査読員によって投稿論文の査読を行っています。今回、7名の編集委員の新旧交代および16名の査読員の追加を行いました。これによって編集委員は23名、査読員は40名となり、総勢63名で投稿論文の査読を担当することになりました。8月27日には、編集委員と査読員を対象として査読説明会を開催することになっていますので、この件については追って報告させていただきます。

(藤田郁代)

言語聴覚研究 (第19巻 第3号) 2022年9月15日発行[年4回(3, 6, 9, 12月)15日発行]

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

1部定価: 2,200円(本体2,000円+税10%)

2022年年間購読料: 8,250円(4冊, 税込, 送料販売会社負担)

編集・発行: 一般社団法人 日本言語聴覚士協会(会長: 深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京9階

(☎03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2022, Printed in Japan

制作・販売: (株)医学書院(代表: 金原 俊) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

販売・PR部 ☎03-3817-5650 FAX 03-3815-7804

印刷所 (株)アイワード

広告取扱 (株)文京メディカル ☎03-3817-8036 FAX 03-3817-8044